

と白菜を出された時は、思わず飛びついたものである。外で食べ歩くことは嫌いな方ではないけれども、夜ひとりでレストランに行くのは面倒になることもあるし、それ以上にあのスペイン料理の量にいささか参ることが多い。スペイン人といえど毎食あれだけのものを食しているとは思わないけれどもかなりの胃の許容力がないとつきあえない。

い。もうひとつの楽しみは商店街の目だけのshoppingである。しかし、日用品の多くは、日本でもおなじみの、多国籍企業の製品が多く、いかに地方都市といえどもセビリアぐらいの都市となると、一時的な生活者にとっては、東京と大きく変わらないといえる。もっと農村のまちに行くとそうはいかないが。

アキレス腱

武田 むつみ

まさに青天の霹靂でした。6月27日、いつもの日曜日のようにいつもの体育館でバドミントンをしていました。基本練習が終わって軽い試合をしていた時のこと、シャトルを打とうと右足を踏み出した瞬間、足首に何とも言えぬひどいショックを感じて倒れてしまいました。何かに激突したのかと思わず周囲を見回しましたが、たゞ平らなコートに私が倒れているだけ。恐る恐る靴を脱いでみると足首のいつもあるはずの腱の部分へこんでしまっています。のぞきこんだ皆が“ヤッター!!”。私も何事もないはずがないとは思いましたが、痛みは最初だけで消えてしまうので、祈るような気持ちで医者を訪ねました（アキレス腱の場合、ここで動かさないことが肝腎です）。しかし、医者は事もなげに手術の宣告を下し、翌日入院という羽目になりました。これできょうの夕飯も、明日の大学も、夏休みのイスラエル旅行もすべてオジャン。事故とは全く思いもかけず突然に起こるものです。卒業後初めてのフル勤務の緊張がようやく解け、一方では疲れがたまっていたのかもしれない。それにしても……いくらグチっても後の祭。右足をスッポリギプスで固められて松葉杖生活が始まりました。

入院して3日目の手術は腰ツイ麻酔のおかげで大した痛みもなく終わりましたが、丸1日の絶食、毎日の点滴は健康だった私をまるで病人のような気分させます。1日3回の検温、その度に気分を尋ねられると、いつもあまり省みない自分の身

体にいやでも注意せざるを得ません。炊事をしなくても食事ができ、寝ているのが仕事などという生活に普段は大いに懂っていたものですが、実際それしかできなくなってみると全くシンドイものです。それでも1週間で抜糸、退院という医師の言葉を信じ、ひたすらおとなしく待ちました、というよりギプスをはめた足は下へおろすと血がどんどん下がって膨れあがるような気がして、トイレへ行くのがやっという状態、それもなるべく回数を減らしたいので極力飲まずにいたら、注射の時“あなたしなびてきたわよ”と言われた程でした。

ところが、手術後の痛みが消える頃から傷口付近が異常にかゆくなってきました。消毒薬とテープ、石こうによるかぶれです。薬を塗った部分全体が大きな水泡になって“こんな皮膚の弱い人は初めて”とのこと。そこへ追いうちをかけるように身体中に抗生物質による薬疹、微熱が続き、気が狂いそうにかゆく、ギプスの中の足も真赤にはれあがってとうとうせっかくはめたギプスもカットすることになってしまいました。退院の“タ”の字の話もないまま1週間、10日、2週間と日が経ち、イライラは増すばかり。発疹がだいぶおさまった18日目に強引に頼みこんで退院してしまいました。家へ帰っても松葉杖ではかえって大変なことも多いのですが、何しろ気分が大違いです。病院で一番辛かったのは夜が長いこと。4時半夕食、9時消灯ではいつもの生活とあまりに違いが大き

く、痛みやかゆみに悩まされながら何時間も眠れずにいるのは全く苦痛の一語につきました。

しかし、とにかく退院後の経過は順調で、毎朝「ああ、きょうもこの足をひきずって過ごすのか」と恨めしかったギブスも手術後5週間ではずすことができました。その間の涙ぐましいフラミンゴ生活も今になれば笑い話。ギブスをはずした翌日から何とか1人で動けるようになり、8月半ばからようやく大学へ復帰しました。といってもはじめのうちはゆっくり歩くだけ、それでも夕方になると足がパンパンにはれ気分が悪かったのですが、1日毎に回復し、駆け足や階段も徐々に上手になりました。今も爪先立ちが少し苦手ですが、以前と同じようにまた体育館へ通い始めました。

私の場合は運動している時に全くプツリ切れてしまったのですが、以後いろいろな話を聞くと、案外フトしたはずみで切れることも多いそうです。特に30代40代の人に多いとのこと。自分ではまだまだ若いと思っても、30歳を過ぎるとやはり身体の老化は始まっているのでしょうか。意識と実態のギャップは意外に大きいのかもしれません。厄年などというものは全く信じない方ですが、高校3年時の病気といい、今回の怪我といい、何か人生の節目を感じずにはられません。とにかく就職早々、教室の皆様には大変御迷惑をかけしまいました。以後もっと慎重に、しかし運動は楽しんでいきたいと思えます。あつてはなりません、皆様の御参考までに体験談を一言。

地理教育の研究法

朝 倉 隆太郎

地理教育は地理学と教育学の交界領域にあり、これまで地理学又は教育学の応用面と考えられてきた。1960年代から地理教育を学問として定立しようとする機運が高まってきてはいるけれども、まだそれを確立するまでにはいたっていないのが現状である。

地理教育の研究法には①理論的研究法②歴史的研究法、③調査的研究法、④実験的研究法、⑤比較的研究法の五つがある。これら5研究法は相互に補完し合うものである。以下各調査法の特質と主な成果を概説する。

1. 理論的研究法

理論的研究法では「地理教育とは何か」が中心テーマになる。この中心テーマを解くためには「地理とは何か」が問題になる。我が国における「地理」又は「地理的」という言葉がどのような文脈の中で日常使用されているかを調べると、地理の中心概念としての「位置」「分布」「環境」「地域」などが析出される。

地理教育の理論的研究の内容は、地理教育の目標・内容構成・カリキュラム・学習過程・学習形

態・評価・地理科担当教員の養成・児童生徒の地理的意識の発達などから構成される。

我が国の地理科のカリキュラムをみると、これまで経済地理的内容に重点が置かれてきたが、今後は諸民族の生活様式やものの見方・考え方を取り扱う文化地理的内容に重点を置くべきであるとの意見が強くなってきている。

2. 歴史的研究法

第二次世界大戦後の教育改革(1947年)により小・中・高等学校の地理科は消滅して社会科という広域教科に含まれることになったが、明治以後の地理科の教授要目や社会科の学習指導要領、地理教科書、地理教育思潮に関する歴史的研究は、多くの成果をあげている。歴史的研究法は方法論も定まっており、今後は江戸時代の往来物に関する研究が期待される。

当面する問題を解決しようとするとき、特に新しい改革を行おうとするときには、歴史的研究が大きな意味をもつものである。

3. 調査的研究法

一般に調査的研究法は実態把握調査と解決策発